

# 令和元年度 教育事業（指導者等養成研修事業） 青少年教育施設ボランティア養成講座（27年目）

## 1 事業概要

愛媛県や広島県、岡山県から参加した社会人・大学生が、青少年教育施設ほか様々な地域でボランティア活動を行うための基本的な知識・技術を2日間にわたり実践的に学んだ。室内での講義や演習(アイスブレイク等)、屋外での「鉄板」を用いてナンカレーを作った。また当施設法人ボランティアが各班のスタッフとして参加し、参加者と密接に関わりながら全ての活動を行った。



## 2 事業の目的（ねらい）

国立大洲青少年交流の家が主催する教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うボランティア人材を育成するとともに、青少年教育及び人材育成の観点から、地域社会へ貢献しようとする人材の育成を図る。

## 3 企画のポイント

本年度も法人ボランティアに班付きスタッフの役割を与え、一部演習や講義を担当させることとし、7月には国立大洲青少年交流の家で事前協議も行った。また、大洲地区広域消防事務組合消防署員による普通救命講習や、松山東雲女子大学の柴崎先生や当所の職員による講義など、充実したプログラム構成となるよう企画した。演習では、当所の事業における野外炊飯全般の基本的な技能を身に付ける研修とした。広報においては、多方面へのチラシの配布に努めた。

- 4 主催** 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家  
**5 後援** 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会・(株)愛媛新聞社  
**6 期日** 令和元年9月7日(土)～8日(日)  
**7 場所** 国立大洲青少年交流の家  
**8 対象** 教育支援ボランティア活動に興味・関心のある高校生、大学生、専門学校生、社会人等の青少年(29歳以下)  
**9 参加人数** 18名(募集20名) 内訳：大学生15名・社会人3名  
**10 参加費** 2,860円  
**11 講師** 柴崎 あい 氏 (松山東雲女子大学・講師)  
 大洲地区広域消防事務組合 消防署員、国立大洲青少年交流の家 職員

## 12 日程

|       | 9:30            | 10:00       | 11:00        | 12:00    | 13:00       | 14:30         | 15:00                | 18:30    | 20:00                | 21:00 | 22:30 |
|-------|-----------------|-------------|--------------|----------|-------------|---------------|----------------------|----------|----------------------|-------|-------|
| 7日(土) | 受付              | 開講式         | ボランティア活動の技術Ⅰ | 昼食<br>休憩 | ボランティア活動の意義 | 休憩<br>移動      | ボランティア活動の技術Ⅱ         | 入浴<br>休憩 | 青少年教育施設におけるボランティア活動Ⅰ |       | 就寝    |
| 8日(日) | 起床<br>つどい<br>朝食 | 6:30        | 9:00         | 12:00    | 13:00       | 14:30         | 15:30                | 16:30    | 17:00                | 閉講式   | 解散    |
|       |                 | 自然体験活動の安全管理 |              | 昼食<br>休憩 | 青少年教育       | 青少年教育施設の現状と運営 | 青少年教育施設におけるボランティア活動Ⅱ |          |                      |       |       |

## 13 活動内容

### 【1日目】

「ボランティア活動の技術Ⅰ(アイスブレイクゲーム)」では、初めて出会う参加者・スタッフ全体の緊張をほぐし、その後の研修効果を促進するための活動を行った。今年度は、法人ボランティアが行った。「ボランティア活動の意義」では、柴崎氏(松山東雲女子大学・講師)による講義を行った。視覚障害の方の体験談を基に、参加者同士で考える場面も多くあり、お互いの意見を話し合いながら、多くのことを学ぶことができた。



「ボランティア活動の技術Ⅱ(野外炊飯)」では、かまどで「鉄板」を使用し「ナンカレー」を作った。参加者は、火おこしの方法や器具の使い方、鉄板のメンテナンス、安全管理を学んだ。



「青少年教育施設におけるボランティア活動Ⅰ」では、法人ボランティアが担当した。5名の法人ボランティアが、スライドで写真を提示しながら、ボランティア体験について分かりやすい説明で伝えた。参加者は、法人ボランティアの説明を熱心に聞き、今後、自分自身が活動していくための意欲やイメージを膨らませていた。

### 【2日目】

「自然体験活動の安全管理(普通救命講習)」では、地元の大洲地区広域消防事務組合消防署員から心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の使用方法や搬送法について学んだ。

「青少年教育」では、職員が「御五神島(おいつかみじま)・無人島体験事業」でのサバイバルキャンプの体験を基に、青少年教育の課題や、発達段階に応じた体験活動の必要性について講義を行った。



「青少年教育施設の現状と運営」の講義では、職員から、青少年教育施設とは心身ともに健全な青少年を育成するために作られた教育活動を行う施設であるとの説明があり、青少年教育施設の役割を知ったり、青少年教育施設が実施する活動内容(運営)や成果(教育機能)を理解したりした。「青少年教育施設におけるボランティア活動Ⅱ」では、法人ボランティアの登録制度について、職員が説明を行った。

## 14 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

**\*満足：78%**      **\*やや満足：22%**      **\*やや不満：0%**      **\*不満：0%**

- 自分の心を見つめ直す良い機会をいただいたと思います。今回のことをボランティア活動で活かされるようにしたいです。
- ボランティアの基礎的部分から実際に行われている体験まで幅広く学ぶことができた。
- 法人ボランティアの方々をはじめ、職員の方が想像以上に気さくな方ばかりで、今後大洲でボランティア活動に携わりたいと思った。

## 15 事業の成果

大洲や全国で活動を行っている法人ボランティアが班付きスタッフとして参加したことで、参加者は多くの体験談を直接聞くことができ、今後法人ボランティアとして活動をしていく上で、非常に有意義な時間を過ごすことができたと思う。また、アンケートの参加者の声からも読み取れるが、満足度のパーセント以上の成果であったと思われる。

## 16 事業の課題

今後は新規登録者が定着し、自信をもって法人ボランティアとして参加できるように、ボランティア活動の案内を続けていくことが重要である。そしてその先には、地域社会で貢献することができる人材の育成に繋げることが大切だと考えている。

(担当：企画指導専門職 武藤健太郎)